

記 録

岡山県自然保護センターにおけるオオムシクイ
Phylloscopus examinandus の確認記録

和気町 齊木 孝

Record of Kamchatka Leaf Warbler *Phylloscopus examinandus*
in the Okayama Prefectural Nature Conservation Center

Takashi SAIKI, Wake-Town

岡山県自然保護センター研究報告
第30号 別刷

記 録

岡山県自然保護センターにおけるオオムシクイ *Phylloscopus examinandus* の確認記録

和気町 齊木 孝

Record of Kamchatka Leaf Warbler *Phylloscopus examinandus*
in the Okayama Prefectural Nature Conservation Center

Takashi SAIKI, Wake-Town

キーワード：岡山県自然保護センター，オオムシクイ，声紋

はじめに

メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (Blasius) の分類は長年にわたり混乱があったが、齋藤らにより分類の再検討がなされ、コムシクイ *P. borealis*、オオムシクイ *P. examinandus*、メボソムシクイ *P. xanthodryas* の3つの独立種に分割することが提案された（齋藤ほか，2012）。日本鳥類目録改訂第7版（2012）ではメボソムシクイ上種について、この新分類が採用され今に至っている（日本鳥学会，2012）。

上記3種のうちオオムシクイは、春の移動期において「チチョリ，チチョリ」や「ジジロ，ジジロ」の特徴的な声でさえざるので（真木ほか，2000），その声により識別は比較的容易である。

岡山県内でのオオムシクイの記録は、日本野鳥の会岡山県支部報によると、2012年5月及び6月（玉野市田井），2017年5月（岡山市中区東川原），2020年5月（倉敷市酒津），2020年6月（岡山市北区後楽園），2021年5月（倉敷市笹沖），2022年6月（倉敷市酒津及び岡山市中区沢田）の8例があり（日本野鳥の会岡山県支部，2012，2017，2020，2021，2022），筆者も2017年5月に岡山市北区平田でさえずりを聞いており（未発表），すべて遅めの春の移動期における記録である。

筆者は、2022年6月に岡山県自然保護センター

（以下，センター）内で本種と思われるさえずりを聞き、同時にその声を録音することができた。

センターの鳥類目録にはオオムシクイの記載がないことから（織田，2021；難波，2022），今回試みた声紋分析の結果と併せ概要を報告する。

確認概要

2022年6月4日午前12時頃，知人1名とセンターのタンチョウ飼育施設付近を通過中に、道路北側の石垣上部の林縁で「チョチョリ」を2~4回連続する鳴き声を聞いた。すぐさま、持っていたスマートフォンの録音アプリを起動し、録音を開始した（録音時間45秒）。

声のする方向を肉眼で探すと、低木の枝でさえずりながら枝移りする黄緑色っぽいムシクイ類1羽が見えた。

種を判断した理由

特徴的なさえずりにより、その場でオオムシクイと判定した（齋藤ほか，2012）。本種の春の移動は5月下旬から6月上旬と遅めであることとも矛盾しない（高野，1980；齋藤ほか，2012）。

さらに、今回録音したさえずりの音源（以下，音源）をもとに、オオムシクイの声紋を作成し声の特徴を検討した。

録音アプリはスマートフォン（Pixel 4a(5G)）にプリインストールされていた「レコーダー」で、

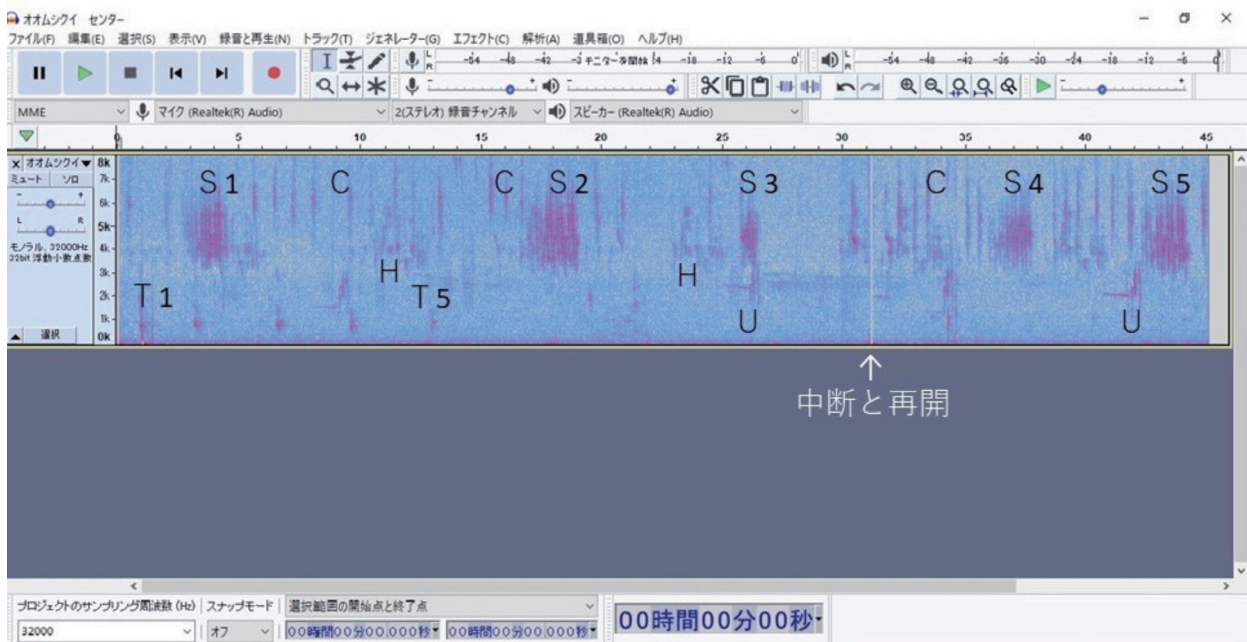


図1. 録音した音源をもとに音声編集ソフトAudacityで作成した声紋

注: 記号は筆者が加工したもので, オオムシクイのさえずり(S1~S5), タンチョウ(T), ホオジロ(H), ウグイス(U), スズメ幼鳥の地鳴きと思われる声(C)

MP4形式で記録される。

音源をパソコンに移し, ファイル変換ソフトでMP3形式に変換した後に, 「Audacity」という音声編集ソフトを使用して声紋(スペクトログラム)を作成した(図1)。なお, 録音を開始して31秒後頃に一時録音を中断し再開したため縦に白いラインが入っている。

図1の声紋をパソコン画面に表示しながら鳴き声を再生すると, オオムシクイのさえずり(図中のS1~S5)の他に, 飼育施設のタンチョウ(T1, T5など), ホオジロ(H), ウグイス(U), スズメ幼鳥の地鳴きと思われる(一部オオムシクイの地鳴きの可能性がある)声(C)などが同時に記録されていた。

齋藤らによれば, オオムシクイのさえずりは, 濁った声で速く, 拍動のようなリズムを持つのが特徴とされ, そのリズムの特徴は, シラブル(音節とも言われ1音で発生されるまとまりのこと)AとBを通常AABという並びで繰り返すことにより生じると述べている(齋藤, 2012)。

そこで, 図1のオオムシクイのS5の声紋を切り取って, 時間スケールを拡大したものを図2に示した。

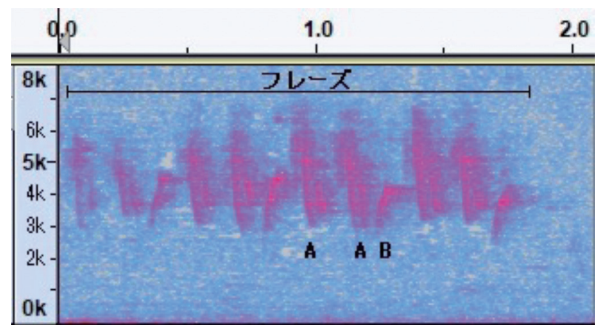


図2. オオムシクイのさえずりの声紋

注: 縦軸は周波数(Hz), 横軸は時間(秒)

図2の声紋でも, 「チョ(A)チョ(A)リ(B)」の3シラブル(AAB)で1単位となっており, これらの単位が2秒間に4単位繰り返され1フレーズになっていることが分かる。また, 周波数は概ね3~6.5 kHzの範囲にあった。

齋藤らの報文に記載されている本種の声紋(録音場所: ロシア・カムチャツカ半島)では, 1単位の反復は2秒間に5単位とやや早口であったが, 周波数はほぼ同様であった。

なお, 図2では, シラブルBの周波数帯が, 齋藤らの報文にある声紋と比較し, 高音域が5 kHzまで達していない。そこで, 世界の鳥の声のデー

データベースサイトである「xeno-canto」に登録されている多数のオオムシクイの声の中から、カムチャツカ半島で録音された声（例えば、録音者：Alexander Hellquist, 録音年月日：2009年6月12日）を再生してみたところ、やや早口ではあるものの、フレーズ自体に顕著な差は感じられず、また、声紋も作成してみたが図2に近いものであった。従って、本種の個体によっては、あるいは同一個体の場合でも、シラブルBがやや高めとなるさえずりもあることが推察された。

いずれにせよ、今回のさえずりはオオムシクイと判定して差し支えないと考える。

おわりに

今回は春の移動期における観察であったが、秋の移動期にも、メボソムシクイもしくはオオムシクイと思われる「ギッ」「ギギッ」「ジッ」「ジジッ」などの地鳴きが聞かれる。齋藤らは、両種の地鳴きも声紋に特徴があると述べており（齋藤ほか, 2012）、今後は地鳴きを録音すれば、声紋分析によってより精度の高い判別が期待できる。

引用文献

- Alexander Hellquist.XC333841. (online)
<https://www.xeno-canto.org/333841>,
 accessed 2022-10-16.
- 織田未希, 2021. 岡山県自然保護センターの鳥類の現状～岡山県自然保護センター鳥類目録への追補～. 岡山県自然保護センター研究報告 (28) : 49-69. 岡山県自然保護センター.
- 齋藤武馬・西海功・茂田良光・上田恵介, 2012. メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (Blasius) の分類の再検討：3つの独立種を含むメボソムシクイ上種について. 日鳥学誌61:46-59.
- 高野伸二, 1980. 野鳥識別ハンドブック. 259pp.
 (財) 日本野鳥の会.
- 難波靖司, 2022. 岡山県自然保護センターの鳥類目録への追補. 岡山県自然保護センター研究報告 (29) : 142-146. 岡山県自然保護センター.
- 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第7版, 三田.
- 日本野鳥の会岡山県支部. 2012. 鳥信. 野鳥おか

- やま (192) : 8. 日本野鳥の会岡山県支部.
 日本野鳥の会岡山県支部. 2017. 鳥信. 野鳥おか
 やま (222) : 6. 日本野鳥の会岡山県支部.
 日本野鳥の会岡山県支部. 2020. 鳥信. 野鳥おか
 やま (240) : 8. 日本野鳥の会岡山県支部.
 日本野鳥の会岡山県支部. 2021. 鳥信. 野鳥おか
 やま (245) : 6. 日本野鳥の会岡山県支部.
 日本野鳥の会岡山県支部. 2022. 鳥信. 野鳥おか
 やま (252) : 7. 日本野鳥の会岡山県支部.
 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥590.
 512pp. 平凡社.

